

やいた未来ミーティング（子育て世代）会議録

日 時：令和元年9月26日（木）

19：00～20：43

場 所：泉公民館

出席者：市長

泉中学校PTA役員 5名

1 開 会 19：00 進行：秘書広報課長

2 あいさつ 矢板市長

平成28年7月から2年間をかけ、矢板市内65行政区で「未来づくり懇談会」を行った。1,100名を超える市民の方から意見や要望があったが、参加者の8割は60歳以上という状況であった。それを受けて平成30年度は「未来づくり懇談会」を補完する形で、子育て世代や市内3つの高校生、矢板市PTA連絡協議会を対象とした「やいた未来ミーティング」を10回開催した。今年度は、小中学校単位で開催し、意見や要望を聞かせてもらいたい。

3 説明事項

「矢板市子ども未来基金の創設について」

市長

この基金を始めたきっかけは、子ども医療費助成制度の問題からスタートした。矢板市では、平成24年度から高校3年生まで医療費の無償化をしているが、無償化の方法としては、医療機関の窓口で支払い後、手続きをしてお金が戻ってくる償還払方式。

近年、栃木県内の市町では、医療機関の窓口で支払いが必要ない現物給付方式が増えてきたことから、矢板市としてどうするかを平成30年度に検討を行ったところ、同じ医療費の無償化でも、現物給付方法にすることで、矢板市の負担額が大幅に増えることがわかった。

理由としては、病院に行くほどでもない病気等であっても受診してしまう医療のコンビニ化や、国の負担金や県の補助金の減額がある。また、他の医療費助成制度を利用しなかったり、各種健康保険の付加給付が受けられないなどがあった。他にも小中学生など加入している、日本スポーツ振興センター保険を手続きが面倒くさいと言って利用しないなど複数の要因がある。

現物給付を行っている市町の医療費の伸びを見て試算したところ、中学3年生まで現物給付を拡大した場合には年間4,500万円、高校3年生まででは年間6,200万円も負担が増えることが確認された。

これらの要因を踏まえ検討した結果、市としては現物給付ではなく、中学3年生まで

拡大した場合の4, 500万円をもっと違った使い方にしようと、子ども未来基金を創設し、子ども子育て支援に繋がっていくような取り組みをしようと決断をした。

基金の用途については、平成31年2月から3月にかけてPTA役員にアンケート調査を実施し、1番多かった給食費の助成と4番目の小中学校の学用品購入の助成とした。2番目に多かった予防接種の助成拡充については、平成31年4月からインフルエンザの予防接種の助成年齢の拡大が1月の時点で決定していたことから除外とした。3番目の学校施設の整備や備品購入についても、具体的な内容を聞いてみたところ、エアコンの設置であった。エアコンの設置についても、1月の時点で全ての小中学校の普通教室にエアコンを設置することで決定していたことから除外とした。

本年度は、基金4, 500万円の3分の2となる3, 000万円くらいを使用する。

また、償還払い方式の利便性向上として、我々の努力不足もあったかもしれないが、平成30年度に実施した懇談会で、1レセプト500円かかるとか、申請方法が複雑、郵送申請についても意外と知られていなかったことから、平成31年4月から子ども医療費の申請書類と郵便受取人払いの封筒を医療機関に設置することとした。

償還払いは面倒だと思う方は多いと思うが、まだまだ利便性を向上できるのではないのかと思っているので、市では現物給付の対象年齢を引き上げないという選択をした。

その上で限られた財源用途を、引き続き皆さんをはじめとする小中学生の保護者の方から声を聞きたい。年度末にはもう少し広い範囲でアンケート調査をしたいと考えている。ムリ、無駄のない「矢板モデル」という医療費助成の制度や、子育て支援制度を確立していきたいと考えている。

3 意見交換テーマ

「子育てしやすいまちづくり」

市長

テーマに入る前に材料を提供したい。本年度の矢板市立小中学校5大ニュースということで、一つ目は全国学力テストで市内の小学6年生が昨年につき、全教科で全国平均を上回った。全国学力テストは、全国の小学6年生と中学3年生を対象に毎年実施をしているが、市内の小中学生は昨年度まで、県の平均はもとより、全国平均で上回ることはなかった。昨年度の全国学力テストでは、教育委員会のいろいろな取り組みが功を奏し、小学6年生の国語A・B、算数A・B、理科の全ての教科で県平均、全国平均を上回った。本年度も小学6年生は全教科で全国平均を上回ったところ。今の教育長になってから、学校での授業改善の努力と家庭学習の取り組みの成果が具体的な形になってきたと思っている。今後ともさらなる学力向上に取り組むと共に、中学3年生については全国平均を全教科で上回ったことがない状況なので、中学生の学力向上に結びつけたい。

2つ目は、全ての小中学校普通教室にエアコン設置ということで、6月末までにエアコン設置をした。

3つ目は、トイレの洋式化。平成28年の洋式化率は24.2%。県内25の市町で最下位。平成29年度に矢板中学校の整備、本年度は東小学校での工事が間もなく始ま

る。また、矢板小学校分も国の予算が付いて、年度内に整備を進めていく。

4つ目は未来基金。5つ目は、小中学校の適正規模・適正配置の建議だが、現在、計画づくりが内部で進められている。

Q 1

保護者

子どもは少なくなっているが医療費が上がっている状況にある。そもそもの財源確保はどうしているのか。支出の方が多くなってきていると思うが。

市長

最近では景気か多少良くなってきたので、法人市民税や個人市民税が伸びている。しかし、固定資産税は毎年評価額が下がっているので減少している。市独自の財源は横ばいかトータルでは少しずつ減少していると思う。歳出では、社会保障にかかる経費は増えている。高齢社会に向けた介護給付、介護保険は別会計であるが、一般財源を充てている状況。また、子どもの数は減っているが、未就学児は、最近0才児から預けるのが当たり前になっていて、非常に支出が増えている。国や県の補助金を積極的に活用している。エアコンは国の特例交付金が出たが、補助は3分の1以下なので、それ以外は市で持たなくてはならない。それでも補助金に手を挙げられるタイミングはうまく使っている。自主財源としては8月末に新聞に載ったが、ふるさと納税。県内25市町で一番になった。3億8千万円と努力はしている。また、公共施設の統廃合を進めていく必要がある。他にも、遊休化している市の土地の売却などで財源を作ろうと考えている。

Q 2

保護者

統合もいろいろ噂されているが、泉中の切実な問題としては部活動ができないこと。野球部は違う学校と合同で大会に出場した。矢中は30人位いて羨ましい。部活動がやりたくてもうまくいかないのが親としては心配。泉中は部活動が3つ位しかない。矢中や塩谷中はいろんな部活がある。

市長

部活動については、どこの市町も少子化の関係で維持するのが難しい。大会側の制約もあり合同チームが出られない大会があるなど聞いている。中学校だけではなく、小学校も小規模校はやらせたい部活が無い。小学校の話になるが、矢板南ファイターズというチームは、片岡小、乙畑小、矢小、豊田小の子どもが加入している。豊田小は全校生徒50人くらいの学校なので、単独チームは作れないが県の学童野球で準優勝した。合同チームの働きかけが1つあってもいいのでは。現時点でも先生方が頑張っていると思う。矢板中では部活に入らない生徒がいる。泉中はどうか？

保護者

ほぼ入っている。

保護者

泉小の野球部は今年入る人がいなくて、来年に繋がらないとってなくなってしまっ

た。ただ、希望があれば小学校まで連れて行ってくれるということで入ってはいるようだ。

市長

ちなみに息子さんは野球をやっている？

保護者

テニスをやっている。テニス部もうちの子一人だけで、他は下級生だった。氏家中に試合に行っても氏家中は人がいっぱい。そんな中、泉中は5～6人。

市長

旧氏家町の人口だけで矢板を追い抜いた。矢中も氏中と比べると部活動の選択肢は少ないと思う。氏中くらい大きくなってしまおうとどうなのかという感じはあるが。小規模校だと部活動の顧問の先生は大変。競技経験がなかったりしている。

保護者

かわいそうだった。でも、その分子ども達がしっかりした。

市長

全ての回答にはならないと思うが。小中学校の統廃合も視野に入れたいといけない。小中学校の児童生徒数の推移では、泉中学校については昨年度の数値で69人。今年度は71人。どこの学校もだが、泉中学校は10年で40%以上減少している。文部科学省では、中学校1学年あたり3学級が望ましいと言っている。中学校になると専門性が高く、教科担任制になるので各教科の先生が必要となる。泉中学校では全教科を正式に免許を持っている先生が教えているのではないと思う。非常勤の先生や副免許を持っている先生が教えているので、学力向上に繋がるのかどうか。新聞報道等で計画案が報道されたので、心配されている方もいると思うが、正式に決まっていはいない。具体的な組み合わせも含め提案をされているところ。

保護者

現在、泉中に行かないで矢中に行っている子どももいる。矢中から泉中に来ている子どももいると思うが、来年以降はそういうものをやらないのか？

市長

泉の学区から矢中に行くというのは分からないが、個別に理由があるのだと思う。泉中と泉小は小規模特認校なので、矢中や片中の学区に住んでいても他の学区から泉中、泉小へ来ることは制度として認められている。泉中学区から矢板中に行くというのはいろいろ例外規程があるので個別の理由を聞いてみないと分からないが、泉中学区から矢中学区へ行くというのは限定的。よほどの事がない限り難しい。

小学校の学区制については、平成25～26年までは緩やかだった時代があった。例えば片岡にあるつつじヶ丘ニュータウンは、本来は乙畑小学区だが片岡小学校に行っていた子もいる。また、成田のハッピーハイランドは豊田小学区だが、東小に行く人が多かった。木幡の区画整理事業内では、川崎小学区だが東小に行っているなど。その名残があり、学区は厳格化されているが、兄、姉が行っていると、その弟、妹は特例的な扱いがある。

保護者

あとは付属中に行かなければ。

市長

泉小は昨年3月の計画案では廃止の対象であった。1年掛けて議論する中、コミュニティスクールという考え方で、地域の皆さんが学校を盛り立ててもらえれば、泉小は残してもいいのではということ、存続という答申をもらっている。今日の午後、泉地区の行政区長との会議で小中学校の統廃合の話が話題になった。来年なくなることはないが、地域としての受け止めはどんな感じか？

保護者

途中で行くと体操着がとか本当にそういう細かいこと。

保護者

入学する子がいなくてもいいから、卒業させたいという思いがある。転校するならここで卒業させたい。

市長

考え方があって、西小学校は今年3月に閉校になり矢板小学校へ統合した。西小学校については閉校が決まった段階で、閉校になるまでに入学する1年生は矢小か西小か選択してもらった。大部分は矢小へ行ったが、1人の子どもは西小に1年間だけでもいいからと入学した。最後の卒業式が決まり、新入生を入れなくなると、卒業する時にはその学年しかいなくなってしまう。それは寂しいのではないかとというのがあり、1年生もいるような形で最後の卒業式を行い、閉校式も行った。

保護者

決まってからはどのくらいで？

市長

決まってからは1年半ぐらい。西小の場合は話を持ちかけて2年2ヶ月。29年1月に保護者の方に説明した。どういう形がいいのか具体的なスケジュールまで考えていない。順番もどこを先に統廃合をしていくかなどを検証している。現時点では答えられないが、西小の時のように2年ちょっとだと短い気がするので最短でも3年。最終的な計画も策定中なので、来年4月以降から早くても3年という感じ。それより早くなることは少なくともないのでご理解を。ただ、西小の時も言われたが、うちの子どもが卒業するまでの話にはのれない。そうするといつまで経っても決断できない。

統廃合はいろいろな提案は出ていて、川崎小についてはJR宇都宮線の東西で分けて、JR西側は矢板小。JR東側は東小学校という提案だが、これも木幡西行政区を分断することになってしまう。中行政区は東小と安沢小へ分れて行っているし、富田行政区も矢小と東小へ行っていて、いろいろ確認する必要がある。豊田小は東小学校へ。乙畑・安沢・片岡小は施設一体型の小中一貫校にしてはどの提案をもらっているが、校舎はどうするのかという話になる。片小、片中の校舎では入りきらないので校舎を建てるとか、別のところに土地を取得して校舎を建てるとなると時間がかかり、順番とすると片岡地区の再編は最後になる。対して泉中、豊田小、川崎小はそういう障害は無いので、計画が正式に固まり次第、どういう形か分からないが、相談をさせてもらうことになる。

特に、泉中から矢中は十分余裕があるが、東小は豊田小・川崎小の一部・安沢小の一部を入れるとなると検討が必要になる。

Q 3

市長

泉中が仮に統合対象になったらどうか？スクールバスは必要か？上太田や東泉のあたりは大丈夫か？

保護者

近くはない。

市長

仮に統合が決まり、お願いする際には条件整備などの話し合いをさせてもらう。泉地区の小学校の統廃合の時からスクールバスが運行されているが、平野や立足の方から、遠いので空きがあるならスクールバスに乗せて欲しいと言われている。

保護者

平野も元々泉小だが、元々はバスが通っていたので本来はバス通学。バスが廃止になってしまい、急遽うちの登校班のところから徒歩になった。あと、100メートルなのに。満員だったらあきらめがつくが。おばあちゃんたちに学校まで迎えを頼んでいる。きょうだいがいると時間がばらばらで2回行かなくてはいけないし、幼稚園の迎えの時間とかぶってしまったりする。

市長

空いているだろうと言われてしまうと確かに空いている。満席なわけではない。

Q 4

保護者

矢板市営バスは走っているが、あれはどのくらいの乗車率なのか？

市長

著しく低い。矢板のバスは空気しか運んでいないと言われる。今日の区長との会議の時にも話が出たが、市営バスはデマンド交通と言って、利用したい前の日くらいに電話などで予約をすれば、家の軒先から乗り合いではあるが目的地まで行ける。それを導入してはどうかと6月の定例会で質問があった。また、スクールバスの空きに一般の高齢者も乗れないかという意見もあったが、スクールバスは統廃合になった子ども向けなのでなかなか難しい。逆にスクールバスを廃止し、市営バスとして走らせるなどの提案ももらっている。いずれにしても日中の乗車率は著しく低い。年間2万5千人。

この辺りはあまり乗っている人がいない。国鉄バスの頃は兵庫畑や関谷宿に行くにしても幹線道路を真っ直ぐだったが、市営バスは周回して回るので、行きは早くても帰りは嫌になってしまう。それが今の市営バスの良くないところ。乗り合いで多少寄り道となるが、行き帰りを考えるとデマンド交通の方がいいのでは。これから平野にしても伊佐野にしても高齢者が増えて、車の免許も返納する方が増えてきたときにどうやって住み慣れた家で生活してもらうのが大きなテーマ。泉中学校に不満や不安はないか？

保護者

子ども達はわいわい楽しそう。

Q 5

保護者

高速のスマートインターチェンジがどのくらい利用する計画で作られたのか分からないが、この辺りの道路整備は大丈夫なのか。矢板那須線など。

市長

矢板那須線については、上太田のチーズファクトリー辺りから東に入り、できるだけ農地を潰さない形で、田野原辺りで今の県道に戻る4km弱のバイパスが検討されている。今は具体的に用地買収も始まっていると思う。今年は簡単に道型を造る工事が始まるのではないかと。スマートインターチェンジは矢板北パーキングエリアのところに来る。令和3年3月目標で工事を進めている。今日の泉地区の区長との会議でも矢板那須線のバイパスは話になったが、平野や立足からは現在の県道が丁字路になっているので、バイパスにアクセスする道路がない。県道の延伸や市の整備なども考えなくてはならない。

保護者

矢板中に通うにしても、それなりの広い道路は。

市長

もうちょっと使える仕組みを。県がやるからそれでいいという話にもならないので、市としてもやらないといけない。スマートインターチェンジで言えば、スマートインターチェンジで下太田から荒井に抜けて、国道4号のバイパスの計画が決まったので、ぶつけた道路。国道4号バイパスとスマートインターチェンジを直接繋げる道路が必要なのではないかという提案もある。自動車教習所から入って東泉かすめて山田へ抜ける。あれをきちんと位置づけしたり、箒川へ抜ける橋も4号の野崎橋から上は宇都野橋しかない中で、今度の国道4号バイパスが山田辺りに橋が架かるので、そこを使えばまた可能性が増えて来る話のかなと。国道4号とセットでできればいいと思ったりしている。

Q 6

保護者

つつじヶ丘は県の土地？

市長

県の住宅供給公社が分譲している。

保護者

ああいうのがあると人が住む。中もそうだが、人を増やすのだったら、家を建てられる場所があれば。

市長

矢板駅の西口。市役所がある側というのは公団混乱地域といって、法務局にある公団や登記簿が実際の境界と合っていないので、大規模な開発ができない。土地の売り買い、

貸し借りが進まないといった状況にある。昨年度から公図と現地を一致させる地籍調査を矢板の中心市街地で始めた。泉地区もそういった問題があったりする。泉地区では東泉、下太田、上太田を少し調査している。空き地を安くすれば若い世代がくるというが泉などは地域の繋がりがまだまだ強いと思う。近所付き合いを考えた時に、そこに家を建てようとはなかなか思わない。分譲地で同じ世代が来そうなところに土地を買って家を建てる傾向がある。

保護者

喜連川のフィオーレは、電車の中吊り広告に載っている。電車なので東京、神奈川など向こうの人も見られる。移住者など出てくると思う。会社の人達も駅から遠いのになぜ買うのかと思っていたが買う人が結構いる。

秘書広報課

フィオーレとびゅうフォレストはJR直轄なので、中吊り広告がバンバン出ている。

市長

JRの事業としてやっているわけだ。大型の分譲地みたいなものがあるといいが、木幡の土地区画整理地も意外に不便だが、矢板の中では家が建っている。泉にそんなところが1箇所でもあれば。最近、まちなか居住・コンパクトシティと言われているが、出来るだけ歩いて買い物だったり、病院の通院だったり、金融機関や郵便局なんかもあるといい。もうちょっとコンパクトに。これは若い人だけではなくて、高齢者の世帯なども中心市街地にまとまって住んでもらうというのがあってもいいと思う。

保護者

矢板の人はなかなか矢板にお金を落とさず、大田原・西那須野に行ってしまう。矢板での買い物になかなか慣れない。せっかくスマートインターチェンジが出来るなら、大きな施設的なものができたら、他の市の人達も矢板に来るようになるのでは？職場の人達にも矢板は通り道と言われるのがショック。

市長

大規模商業施設で言えば、矢板市は商圏人口が小さい。大田原と西那須野はくっついているようなもの。さくら市も最近宇都宮のベッドタウンという位置づけがあり、旧氏家の人口だけで矢板市より多くなった。人口が増えない中でよく言われるのが、シャープの跡地利用をどうするか。コストコなどの話が出る。

保護者

ほしい。

市長

栃木県にはコストコが無い。壬生町が誘致を表明したと下野新聞に載っていた。コストコがダメならイケアと。コストコやイケアは幹線道路沿い。4号の沿線ということで場所的には良いと思う。インターも近いし。シャープの跡地利用について協議をしているが、シャープの土地。シャープとしては今の建物を出来るだけ使う形でやって欲しい。解体撤去するにしても費用がバカにならない。この前、見積もりを頼んだら坪8万円なので、出来れば壊したくない。我々もその線でいろいろ紹介してきたがなかなか難しい。4号に面した第4工場という大きな工場があるが、コストコの倉庫にいいと思った。コ

ストコは倉庫といっても、すごく天井が高いので、壊さないといけないとなると地主であるシャープと話さなくてははいけない。

シャープについては、現在も物流やアフターサービスの拠点があって、全部使っていない訳ではないので、あの場所にコストコやイケアというのは難しい。市外から来てもらえるようなインパクトのある吸引力のある商業施設というのは矢板にはない。

保護者

子ども達が遊べる施設。宇都宮のラウンド1とか。連れて行ったりするが行けなかったりもする。

市長

昨年、高校生と意見交換会を行ったが、高校生もラウンド1と言っていた。あとはスターバックス。スタバによってどれだけの経済効果があるかわからないが、そんなことも考えていかないとはいけない。大田原には人口も経済規模も負けているが、一つだけあげるとすると何か切り札はあるか？ラウンド1は50万人くらいいないと成り立たない。

保護者

でも、近場の人達がくれば。

保護者

県北の人達は来てくれる。

保護者

空いているからすぐ入れるとって来る人がいる。

市長

小中学校の適正配置もそうだが、民間企業は支店も減らしている。あれもこれもは難しいと思うが、一点集中でというのがあるといい。それがなかなか見つからない。泉地区の代名詞があればいいが。そういう面ではおしらじの滝。八方ヶ原の入り込み数も1.5倍に増えたり、文化庁の日本遺産で山縣農場跡とか山縣有朋記念館も指定され、来庁者も増えている。その辺をうまく組み合わせできればいいと思う。おしらじの滝や山縣有朋記念館を観てもらって泉地区で食事をしてもらおうとか。泉地区もお店がない。今日も区長さん方達から、コンビニは何とかならないか。ローソンが下太田に出来たがもうちょっと上に来なのかという話だった。

保護者

山の駅たかはらは県のものなのか？

市長

あれは市。指定管理者制度を導入して民間企業のシダックスが運営している。県民の森は県が指定管理者制度を導入してやっている。

保護者

おしらじの滝はそっちの方？

市長

山の駅よりさらに塩原側。

保護者

20年くらい前に行った際、キャンプ場やレクリエーション施設があったが閉鎖され

ていた。

市長

民間の土地が入っている。を開発できればと言うのがあるが、八方の方は国立公園に指定されていて、開発にはいろんな制約がある。おしらじの滝ブームで山の駅の駐車場も満車になったり、路上に駐車したりで、普通に考えれば駐車場を増やせばいいと思うが、開発には制約があり難しい。山の駅まで大型バスも上がるようになったが、立木が繁茂していてバスのドライバーは嫌がる。そんなところも少しずつ改善していかないと。

保護者

バスは行っていないのか？

市長

バスは行っていない。新緑の時期に市の臨時バスは出しているが、定期的には行っていない。その辺りも少し発掘出来れば。できればこの泉区内でお金を落としてもらえよう。山の駅たかはらも、最近は青いソフトクリームを始めたり、おしらじクッキーを販売している。また、市内全域にも広まり、道の駅では、おしらじブルーサンデーや城の湯温泉ではおしらじ塩冷やし麺といった、青いスープのラーメンやおしらじコーヒーなど。山の駅たかはらの売り上げも増えた。下りてきてお昼を食べてもらう。一番館か川島屋か古川屋。そんな仕組み作りを。矢板のまち自体、観光に力を入れて来なかったのも伸びしろは大きい。

6 閉 会 20 : 43